

学校コード F111310102192
注3

設置年度 令和 3年度
計画の区分： 学部の設置
注1

届出

注2
東都大学 沼津ヒューマンケア学部 看護学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人青淵学園
令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	総務課
職名・氏名	ジムチョウ ヤマシタ マスヒロ 事務長 山下 泰大
電話番号 (夜間)	048-574-2500
e-mail	soumu@tohto.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

沼津ヒューマンケア学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人青淵学園

(2) 大学名

東都大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒410-0032

静岡県沼津市日の出町1-1

(〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西4-2-11)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オヅネ ヲム) 大坪 修 (平成20年11月)		
学長	(カヅヨ トオ) 中條 俊夫 (平成25年9月)	(ヨシカ トマサ) 吉岡 俊正 (令和3年4月)	辞任に伴う変更。(令和3年4月1日) (3)
学部長	(オオカ カツサ) 太田 勝正 (令和3年4月)		
学科長等	(オオカ カツサ) 太田 勝正 (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
沼津ヒューマンケア学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	4年	100人	2年次 3年次 4年次 人	400人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	-	-	-	-	-	-	100	-	100	-	100	-	0.86倍	-	0.84倍	-	
志願者数	-	-	-	-	-	-	121	-	138	-	118	-					
受験者数	-	-	-	-	-	-	110	-	131	-	114	-					
合格者数	-	-	-	-	-	-	106	-	123	-	112	-					
B 入学者数	-	-	-	-	-	-	88	-	83	-	88	-					
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.88	-	0.83	-	0.88	-					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度未時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ （ ）内には、**編入学の状況について外数で記入**してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **転入学生は記入しないでください。**
- ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。**春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。**また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。**計算の際は「入学定員超過率」と同様**にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	84	-	76	-	88	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2年次			-	-	-	-	-	-	81	-	76	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3年次					-	-	-	-	-	-	81	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4年次							-	-	-	-	-	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	84	-	157	-	245	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。**また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	88 人	4 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	4 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、学力不足(2人)、除籍(1人)
令和4年度	157 人	10 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	3 人	0 人	就学意欲の低下(2人)、家庭の事情(1)
			令和4年度	7 人	0 人	他の教育機関への入学(2人)、就学意欲の低下(2人)、就職(2人)、家庭の事情(1)
令和5年度	245 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
合計		14 人		14 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{88} = \boxed{4.54} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{10}{157} = \boxed{6.36} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{245} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
看護の統合と発展	看護研究方法	3前	1			5	1	2						
	ヒューマンケア看護研究	4後	1			11	2	4	3					
	ヒューマンケア総合演習	4前後	1			11	2	4	3					
	看護統合実習	4前	2			7	2	4	3					
	医療安全論	4前	1										1	
	看護カウンセリング	2後	1			2	1							
	看護管理	4前		1		2								1
	医療関係職種連携論	4前		1		4		1						
	医療政策論入門	4前		1		1								1
	感染看護	4前		1		2								
	がん看護	4前		1		1		1						
	救急看護	4前		1			1							1
	災害看護	4後		1		1								1
	国際保健	4後		1		1								
小計(14科目)	-	7	8	0									5	
保健師課程	公衆衛生看護活動論	3前	1			1			1					
	公衆衛生看護展開論Ⅰ	3前	1			1								
	公衆衛生看護展開論Ⅱ	3前	1			1								
	公衆衛生看護学演習Ⅰ	3前	2			1			1					
	公衆衛生看護学演習Ⅱ	4前	2			1			1					
	公衆衛生看護管理	4後	1			1								
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	3後	1			1			1					
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		4		1			1					
小計(8科目)	-	0	13	0									0	
合計(126科目)	-	109	63	0	11	2	4	3	0				41	
卒業要件及び履修方法														
「ヒューマンケアの基礎科目群」から必修科目14単位+「人間形成の基礎」「自然科学の理解」(※の「異文化理解」科目については「人間形成の基礎」科目としての選択も可)から7単位選択(但しその内2単位の科目を1科目以上含める)+「学習・自己教育の基礎」「異文化理解」から1単位選択、計22単位、「看護の基礎科目群」から必修27単位+選択科目2単位で計29単位、「看護専門科目群」の必修科目68単位+選択必修科目「看護管理」1単位+選択4単位で計73単位以上、合計124単位以上修得すること。【履修科目の登録上限:30単位(半期)】														

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
看護の統合と発展	看護研究方法	3前	1			3		2	1					
	ヒューマンケア看護研究	4後	1			9	3	10	3					
	ヒューマンケア総合演習	4前後	1			9	3	10	3					
	看護統合実習	4前	2			6	3	10	3					
	医療安全論	4前	1											1
	看護カウンセリング	2後	1			1		1						
	看護管理	4前		1		1								1
	医療関係職種連携論	4前		1		3								
	医療政策論入門	4前		1		1								1
	感染看護	4前		1		2								
	がん看護	4前		1				1						
	救急看護	4前		1				1						1
	災害看護	4後		1		1								1
	国際保健・看護	4後				2		1						
小計(14科目)	-	7	9	0									5	
保健師課程	公衆衛生看護活動論	3前	1			1		1						
	公衆衛生看護展開論Ⅰ	3前	1			1		1						
	公衆衛生看護展開論Ⅱ	3前	1			1		1						
	公衆衛生看護学演習Ⅰ	3前	2			1		1						
	公衆衛生看護学演習Ⅱ	4前	2			1		1						
	公衆衛生看護管理	4後	1			1		1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	3後	1			1		1						
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		4		1		1						
小計(8科目)	-	0	13	0									0	
合計(123科目)	-	107	62	0	9	3	10	3	0				52	
卒業要件及び履修方法														
「ヒューマンケアの基礎科目群」から必修科目16単位+「人間形成の基礎」「自然科学の理解」(※の「異文化理解」科目については「人間形成の基礎」科目としての選択も可)から7単位選択(但しその内2単位の科目を1科目以上含める)+「学習・自己教育の基礎」「異文化理解」から1単位選択、計24単位、「看護の基礎科目群」から必修25単位+選択科目2単位で計27単位、「看護専門科目群」の必修科目68単位+選択必修科目「看護管理」1単位+選択4単位で計73単位以上、合計124単位以上修得すること。【履修科目の登録上限:30単位(半期)】														

【令和4年度】

Table for FY2022 (令和4年度) showing course details, credit distribution, and staffing across various categories like 'Nursing' and 'Public Health'.

【令和3年度】

Table for FY2021 (令和3年度) showing course details, credit distribution, and staffing across various categories like 'Nursing' and 'Public Health'.

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・指定申請時に文部科学省医学教育課より科目名称の工夫について指摘を受けたため、「身体の構造・機能Ⅰ」「身体の構造・機能Ⅱ」「身体の構造・機能Ⅲ」「疾病治療論Ⅰ」「疾病治療論Ⅱ」「疾病治療論Ⅲ」「疾病治療論Ⅳ」「疾病治療論Ⅴ」「疾病治療論Ⅵ」を「身体の構造・機能Ⅰ（基礎編）」「身体の構造・機能Ⅱ（系統別）」「身体の構造・機能Ⅲ（構造・機能測定法）」「疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）」「疾病治療論Ⅱ（消化器・内分泌系）」「疾病治療論Ⅲ（筋骨格系）」「疾病治療論Ⅳ（小児科系）」「疾病治療論Ⅴ（神経系）」「疾病治療論Ⅵ（泌尿器・産科系）」に名称変更。
- ・経験豊かな専任教員を得ることができたため、「統計学入門」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・5つの専門領域の教員にて担当が可能であることがわかったため、「看護とキャリア」の専任教員等の配置を「教授6、准教授2」から「教授5、准教授2」に変更。
- ・授業内容の充実のため、「大学入門講座」の専任教員等の配置を「教授3、准教授2、講師1」から「教授3、准教授2、講師1、助教2」に変更。
- ・キャンパスの近隣に経験豊かな薬理学の専門家を得ることができたため、「薬理学」の専任教員等の配置を「兼任1」から「兼任1」に変更。
- ・授業内容の充実のため、「病態学」の専任教員等の配置を「兼任1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・授業内容の充実のため、「メンタルヘルスと精神医学」の専任教員等の配置を「兼任1」から「教授1、准教授1、兼任1」に変更。
- ・授業内容の充実のため、「基礎看護学概論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・授業内容の充実のため、「看護援助論Ⅰ」「看護援助論Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授2、助教1」から「教授2、准教授1、助教2」に変更。
- ・授業内容の充実のため、「ヘルスアセスメント」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授2、准教授1、助教2」に変更。
- ・経験豊かな専任教員を得ることができたため、「救急看護」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。

【令和4年度】

- ・教育課程の変更により「心理学」を「選択」から「必修」に変更。
- ・授業内容充実のため「大学入門講座」の専任教員の配置を「教授3、准教授2、講師1、助教2」から「教授3、准教授2、講師2、助教3」に変更。
- ・教育課程の変更により「コミュニケーション論」の配当年次を「1前」から「2年後」に変更。
- ・教授の退職に伴い、「看護とキャリア」の専任教員の配置を「教授5、准教授2」から「教授4、助教1」に変更。
- ・授業内容充実のため「実践医療英語Ⅰ」の専任教員の配置を「教授2」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・授業内容充実のため「実践医療英語Ⅱ」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・授業内容充実のため、「疾病治療論Ⅴ（精神・神経系）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・教育課程の変更により「メンタルヘルスと精神医学」を「疾病治療論Ⅴ（精神・神経系）」に統合。
- ・教授の退職に伴い、「看護関係法規」の専任教員の配置を「教授4」から「教授3、准教授2」に変更。
- ・教育課程の変更により「保健医療福祉行政論Ⅱ」の単位数を「1単位」から「2単位」に変更。
- ・授業内容充実のため「ヘルスアセスメント」「看護援助論Ⅰ」「看護援助論Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員の配置を「教授2、准教授1」「助教2」から「教授2、准教授1、助教3」に変更。
- ・授業内容充実のため「看護援助論Ⅲ」の専任教員の配置を「教授2、助教2」から「教授2、准教授1、助教3」に変更。
- ・授業内容充実のため「看護実践方法論」「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員の配置を「教授1、助教2」から「教授1、准教授1、助教3」に変更。
- ・経験豊かな小児看護領域の専任教員を得ることができたため、「小児看護学概論」「小児看護学援助論」「小児看護学実習」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・経験豊かな成人看護領域の専任教員を得ることができたため、「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ」「成人看護学援助論Ⅱ」「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」の専任教員の配置を「教授1、講師1」から「教授1、講師2」に変更。
- ・教育課程の変更により「ウェルネス期看護論」を「成人看護学概論」に統合したため、単位数が「1単位」から「2単位」に変更。
- ・授業内容充実のため、「地域の健康と看護Ⅱ」の専任教員の配置を「教授1、講師1」から「教授1、准教授1、講師1」に変更。
- ・教育課程の変更により「産業看護論Ⅰ」の単位数が「2単位」から「1単位」に変更。
- ・教育課程の変更により「公衆衛生看護学概論」を新設。
- ・教授の退職に伴い、「精神看護学概論」「精神看護学援助論」「精神看護学実習」の専任教員の配置を「教授1、准教授1」から「准教授1、助教1」に変更。
- ・授業内容充実のため「在宅看護学概論」「在宅看護学援助論」の専任教員の配置を「准教授1、講師1」から「准教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・授業内容充実のため、「地域・在宅看護実習」の科目名の変更及び専任教員等の配置を「教授1、講師1」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・教員の退職、就任に伴い、「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」の専任教員の配置を「教授11、准教授2、講師4、助教3」から「教授10、准教授3、講師6、助教3」に変更。
- ・教員の就任に伴い、「看護統合実習」の専任教員の配置を「教授7、准教授3、講師6、助教3」から「教授7、准教授3、講師6、助教3」に変更。
- ・教育課程の変更により「国際文化」「国際社会の状況と看護の在り方」を「国際保健・看護」に統合。

【令和5年度】

教員の退職及び新規就任による専任教員の配置変更は以下の通り。

「統計学入門」の「教授2、准教授1」を「教授2、准教授1、講師1」に変更。
「大学入門講座」の「教授3、准教授2、講師2、助教3」を「教授3、准教授1、講師2、助教3」に変更。
「看護とキャリア」の「教授4、准教授1、助教1」から「教授5」に変更。
「実践医療英語Ⅰ」の「教授2、准教授1」から「教授2」に変更。
「実践医療英語Ⅱ」の「教授1、准教授1」から「教授1」に変更。
「看護関係法規」の「教授3、准教授2」から「教授3、准教授1」に変更。
「保健医療福祉行政論Ⅰ」の「教授2」を「教授2、講師1」に変更。
「ヘルスアセスメント」「看護援助論Ⅰ」「看護援助論Ⅱ」「看護援助論Ⅲ」のそれぞれ「教授2、准教授1、助教3」を「教授2、准教授1、助教1」に変更。
「看護実践方法論」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」のそれぞれ「教授1、准教授1、助教3」を「教授2、准教授1、助教1」に変更。
「小児看護学概論」「小児看護学援助論」「小児看護学実習」のそれぞれ「教授1、講師1」を「教授1、講師1、助教1」に変更。
「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ」「成人看護学援助論Ⅱ」「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」のそれぞれ「教授1、講師2」を「准教授1、講師2」に変更。
「リプロダクティブヘルス看護学概論」「リプロダクティブヘルス看護学援助論」「リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ」のそれぞれ「教授1」を「教授1、講師2」に変更。
「慢性期看護論」の「教授1、講師1」から「教授1、講師4、助教1」に変更。
「回復期看護論」の「教授1、講師1」から「教授1、准教授2、講師4」に変更。
「終末期看護論」の「教授1、講師1」から「教授3」に変更。
「地域の健康と看護Ⅰ」の「教授2」から「教授2、講師1」に変更。
「地域包括ケア概論」の「教授1、准教授1、講師2」から「教授1、准教授1、講師3」に変更。
「地域母子保健」の「教授2」から「教授1」に変更。
「家族看護論」の「教授3、准教授1」から「教授2、准教授1、講師1」に変更。
「産業看護論Ⅰ」「産業看護論Ⅱ」「公衆衛生看護学概論」のそれぞれ「教授1」を「教授1、講師1」に変更。
「精神看護学概論」「精神看護学援助論」「精神看護学実習」のそれぞれ「准教授1、助教1」を「講師1」に変更。
「在宅看護概論」「在宅看護援助論」「地域・在宅看護実習」のそれぞれ「准教授1、講師1、助教1」を「准教授1、講師2」に変更。
「看護研究方法」の「教授5、准教授1、講師2」を「教授3、講師2、助教1」に変更。
「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」のそれぞれ「教授10、准教授3、講師6、助教3」を「教授9、准教授3、講師10、助教3」に変更。
「看護統合実習」の「教授7、准教授3、講師6、助教3」から「教授6、准教授3、講師10、助教3」に変更。
「看護カウンセリング」の「准教授1、助教1」から「教授1、講師1」に変更。
「看護管理」の「教授2」から「教授1」に変更。
「医療関係職種連携論」の「教授4、講師1」から「教授3」に変更。
「がん看護」「救急看護」のそれぞれ「教授1」を「准教授1」に変更。
「災害看護」の「教授1」を削除し、「兼任1」をそのままとする。
「公衆衛生看護展開論Ⅰ」「公衆衛生看護展開論Ⅱ」「公衆衛生看護管理」のそれぞれ「教授1」を「教授1、講師1」に変更。
「公衆衛生看護学活動論」「公衆衛生看護学演習Ⅰ」「公衆衛生看護学演習Ⅱ」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」のそれぞれ「教授1、助教1」を「教授1、講師1」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
77 科目	49 科目	科目	126 科目	76 科目 [Δ1]	47 科目 [Δ2]	科目 []	123 科目 [Δ3]	【旧カリキュラムの授業科目数】126科目 [0]

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						
4						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{126} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	30,681.48㎡	0㎡	0㎡	30,681.48㎡			
	運 動 場 用 地	20,822.43㎡	0㎡	0㎡	20,822.43㎡			
	小 計	51,503.91㎡	0㎡	0㎡	51,503.91㎡			
	そ の 他	8,769.12㎡	0㎡	0㎡	8,769.12㎡			
	合 計	60,273.03㎡	0㎡	0㎡	60,273.03㎡			
(2) 校 舎		専 用 39,740.64㎡ (39,740.64㎡)	共 用 0㎡ (0 ㎡)	共用する他の 学校等の専用 0㎡ (0 ㎡)	計 39,740.64㎡ (39,740.64㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	7室	演 習 室 0室	実 験 実 習 室 3室	情 報 処 理 学 習 施 設 2室 (補助職員 一人)	語 学 学 習 施 設 0室 (補助職員 一人)		
	専任教員研究室	新設学部等の名称 沼津ヒューマンケア学部看護学科			室 数 26 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書、視聴覚資料共に医療法人等からの寄贈や、教育の質の向上のため増冊 学術雑誌減冊の理由は寄贈が1誌あったが、統合された雑誌が4誌あったため(4)医療法人等からの寄贈や、教育の質の向上のため増冊 学術雑誌減冊の理由は入荷予定だった雑誌が刊行中止のため。なお、該当雑誌はOPACにより閲覧可能(3)
	沼津ヒューマン ケア学部 看護学科	4,000 [169] 2,940 [168] 2,689 [168] (1,569 [42]) (1,302 [42])	50 [14] 53 [14] 54 [14] (53 [14]) (54 [14])	16 [12] (16 [12])	21 19 (10)	422 (202)	35 (35)	
	計	4,000 [169] 2,940 [168] 2,689 [168] (1,569 [42]) (1,302 [42])	50 [14] 53 [14] 54 [14] (53 [14]) (54 [14])	16 [12] (16 [12])	21 19 (10)	422 (202)	35 (35)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		教育の質向上、学生の授業環境の向上のため、メディアプラザ大をより講義のしやすい開架閲覧室と入替えたため(3)	
	471.24㎡ 502.89㎡		41		33,420			
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
	933.50㎡		—					
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度
		教員1人当り研究費等	363千円	352千円	図書購入費	10,536千円	13,372千円	4,000千円
	共 同 研 究 費 等	900千円	900千円	設備購入費	100,490千円	25,000千円	1,000千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
		1,799千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	- 千円	- 千円	
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、付随事業収入、雑収入等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	東 都 大 学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	2	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	-	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	-
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
沼津ヒューマンケア学部	4	100	-	400	-	0.86	-	0.84	-	-	令和3	-						
看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	0.86	-	0.84	-	-	令和3	静岡県沼津市日の出町1-1						
幕張ヒューマンケア学部	4	240	-	960	-	0.94	-	0.93	0.92	-	平成30	-						
理学療法学科	4	80	-	320	学士(理学療法)	0.95	-	0.79	-	-	令和元	千葉県千葉市美浜区中瀬1-3						
臨床工学科	4	40	-	160	学士(看護学)	0.43	-	0.34	-	-	令和3	千葉県千葉市美浜区ひび野1-1						
看護学科	4	120	-	480	学士(看護学)	1.05	-	1.06	1.05	-	平成30	千葉県千葉市美浜区ひび野1-1						
管理栄養学部	4	80	-	320	-	0.51	-	0.49	-	-	平成30	-						
管理栄養学科	4	80	-	320	学士(栄養学)	0.51	-	0.49	-	-	平成30	埼玉県深谷市上柴町西4-2-11						
ヒューマンケア学部	4	100	-	400	-	1.01	-	1.04	1.01	-	平成21	-						
看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	1.01	-	1.04	1.01	-	平成21	埼玉県深谷市上柴町西4-2-11						
大学全体	4	520	-	2080	-	0.87	-	0.87	0.86	-	平成21	-						

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<沼津ヒューマンケア学部 看護学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】			【令和3年度】			【令和4年度】			【令和5年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	太田 勝正 (66) <令和3年4月> 医学博士	専	教授	太田 勝正 (66) <令和3年4月> 医学博士	専	教授	太田 勝正 (67) <令和3年4月> 医学博士	専	教授	太田 勝正 (68) <令和3年4月> 医学博士
					ヒューマンケア概論 統計学入門 実践医療英語Ⅰ 基礎看護学概論 看護倫理 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護管理						ヒューマンケア概論 統計学入門 実践医療英語Ⅰ 基礎看護学概論 看護倫理 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護管理 精神看護学概論 精神看護学援助論
専	教授	加城 貴美子 (70) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	加城 貴美子 (70) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	加城 貴美子 (71) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	加城 貴美子 (71) <令和3年4月> 博士(医学)
		看護とキャリア※ リプロダクティブヘルス看護学概論 リプロダクティブヘルス看護学援助論 リプロダクティブヘルス看護学実習 ウェルネス期看護論 地域母子健康 家族看護論※ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			看護とキャリア※ リプロダクティブヘルス看護学概論 リプロダクティブヘルス看護学援助論 リプロダクティブヘルス看護学実習 ウェルネス期看護論 地域母子健康 家族看護論※ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			看護とキャリア※ リプロダクティブヘルス看護学概論 リプロダクティブヘルス看護学援助論 リプロダクティブヘルス看護学実習 地域母子健康 家族看護論※ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			
									専	教授	難波 亜希子 (55) <令和3年4月> 博士(医学)
											看護とキャリア※ リプロダクティブヘルス看護学概論 リプロダクティブヘルス看護学援助論 リプロダクティブヘルス看護学実習 地域母子健康 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習
専	教授	松田 正己 (67) <令和3年4月> 保健学博士	専	教授	松田 正己 (67) <令和3年4月> 保健学博士	専	教授	松田 正己 (68) <令和3年4月> 保健学博士	専	教授	松田 正己 (69) <令和3年4月> 保健学博士
		いのちと倫理 統計学入門 実践医療英語Ⅰ 実践医療英語Ⅱ 国際社会の状況と看護の在り方 公衆衛生学 保健医療福祉行政論Ⅰ 看護倫理 地域の健康と看護Ⅰ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 医療政策論入門 国際保健			いのちと倫理 統計学入門 実践医療英語Ⅰ 実践医療英語Ⅱ 国際社会の状況と看護の在り方 公衆衛生学 保健医療福祉行政論Ⅰ 看護倫理 地域の健康と看護Ⅰ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 医療政策論入門 国際保健			いのちと倫理 統計学入門 実践医療英語Ⅰ 実践医療英語Ⅱ 公衆衛生学 保健医療福祉行政論Ⅰ 看護倫理 地域の健康と看護Ⅰ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 医療政策論入門 国際保健・保健			いのちと倫理 統計学入門 実践医療英語Ⅰ 実践医療英語Ⅱ 公衆衛生学 保健医療福祉行政論Ⅰ 看護倫理 地域の健康と看護Ⅰ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 医療政策論入門 国際保健・保健
専	教授	田崎 知恵子 (62) <令和3年4月> 博士(保健学)	専	教授	田崎 知恵子 (62) <令和3年4月> 博士(保健学)	専	教授	田崎 知恵子 (63) <令和3年4月> 博士(保健学)	専	教授	田崎 知恵子 (64) <令和3年4月> 博士(保健学)
		看護とキャリア※ 看護関係法規 小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護学実習 ウェルネス期看護論 家族看護論※ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護力ワンセリング 医療関係職種連携論 感染看護			看護とキャリア※ 看護関係法規 小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護学実習 ウェルネス期看護論 家族看護論※ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護力ワンセリング 医療関係職種連携論 感染看護			看護とキャリア※ 看護関係法規 小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護学実習 家族看護論※ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護力ワンセリング 医療関係職種連携論 感染看護 急性期看護論 終末期看護論			看護とキャリア※ 看護関係法規 小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護学実習 家族看護論※ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護力ワンセリング 医療関係職種連携論 感染看護 急性期看護論 終末期看護論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
専	教授	菊池 明江 (61) <令和3年4月> 博士(看護学)						
		看護とキャリア※ 看護関係法規 基礎看護学概論 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 感染看護						
専	准教授	中野 補久 (40) <令和3年4月> 博士(医学)	専	准教授	中野 補久 (41) <令和3年4月> 博士(医学)	専	准教授	中野 補久 (42) <令和3年4月> 博士(医学)
		統計学入門 看護関係法規 基礎看護学概論 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			統計学入門 看護関係法規 基礎看護学概論 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			統計学入門 看護関係法規 基礎看護学概論 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習
専	教授	杉井 たつ子 (60) <令和3年4月> 修士(社会学)	専	教授	杉井 たつ子 (61) <令和3年4月> 修士(社会学)	専	教授	杉井 たつ子 (62) <令和3年4月> 修士(社会学)
		統計学入門 公衆衛生学 看護関係法規 保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ ウェルネス期論 地域の健康と看護Ⅰ 地域の健康と看護Ⅱ 地域包括ケア概論 地域母子保健 産業看護論Ⅰ 産業看護論Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 医療関係職種連携論 災害看護 公衆衛生看護活動論 公衆看護活動展開論Ⅰ 公衆看護活動展開論Ⅱ 公衆衛生学演習Ⅰ 公衆衛生学演習Ⅱ 公衆衛生看護管理 公衆衛生学実習Ⅰ 公衆衛生学実習Ⅱ			統計学入門 公衆衛生学 看護関係法規 保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ 地域の健康と看護Ⅰ 地域の健康と看護Ⅱ 地域包括ケア概論 地域母子保健 産業看護論Ⅰ 産業看護論Ⅱ 公衆衛生看護学概論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 医療関係職種連携論 災害看護 公衆衛生看護活動論 公衆看護活動展開論Ⅰ 公衆看護活動展開論Ⅱ 公衆衛生学演習Ⅰ 公衆衛生学演習Ⅱ 公衆衛生看護管理 公衆衛生学実習Ⅰ 公衆衛生学実習Ⅱ			統計学入門 公衆衛生学 看護関係法規 保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ 地域の健康と看護Ⅰ 地域の健康と看護Ⅱ 地域包括ケア概論 地域母子保健 産業看護論Ⅰ 産業看護論Ⅱ 公衆衛生看護学概論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 医療関係職種連携論 災害看護 公衆衛生看護活動論 公衆看護活動展開論Ⅰ 公衆看護活動展開論Ⅱ 公衆衛生学演習Ⅰ 公衆衛生学演習Ⅱ 公衆衛生看護管理 公衆衛生学実習Ⅰ 公衆衛生学実習Ⅱ
専	教授	望月 紀子 (61) <令和3年4月> 修士(看護学)	専	教授	望月 紀子 (61) <令和3年4月> 修士(看護学)	専	教授	望月 紀子 (62) <令和3年4月> 修士(看護学)
		看護とキャリア※ 高齢者看護学概論 高齢者看護学援助論 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 家族看護論※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護管理 医療関係職種連携論			看護とキャリア※ 高齢者看護学概論 高齢者看護学援助論 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 家族看護論※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護管理 医療関係職種連携論			看護とキャリア※ 高齢者看護学概論 高齢者看護学援助論 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 家族看護論※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護管理 医療関係職種連携論 慢性期看護論 回復期看護論 終末期看護論
専	教授	神野 英明 (56) <令和3年4月> 修士(応用社会学)	専	教授	神野 英明 (57) <令和3年4月> 修士(応用社会学)	専	教授	神野 英明 (58) <令和3年4月> 修士(応用社会学)
		心理学 社会学 哲学 生活科学 生活と芸術 大学入門講座 コミュニケーション論 国際文化 社会福祉概論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習			心理学 社会学 哲学 生活科学 生活と芸術 大学入門講座 コミュニケーション論 国際文化 社会福祉概論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習			心理学 社会学 哲学 生活科学 生活と芸術 大学入門講座 コミュニケーション論 社会福祉概論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
専	教授	石村 佳代子 (55) <令和3年4月> 博士(看護学)	専	教授	石村 佳代子 (55) <令和3年4月> 博士(看護学)	専	教授	石村 佳代子 (55) <令和3年4月> 博士(看護学)
		大学入門講座 看護とキャリア※ 看護関係法規 ウェルネス期看護論 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学実習 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護カウンセリング 医療関係職種連携論 メンタルヘルスと精神医学			大学入門講座 看護とキャリア※ 看護関係法規 ウェルネス期看護論 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学実習 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護カウンセリング 医療関係職種連携論 メンタルヘルスと精神医学			
専	教授	中内 暁博 (55) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	中内 暁博 (55) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	中内 暁博 (56) <令和3年4月> 博士(医学)
		身体の構造・機能Ⅰ(基礎編) 身体の構造・機能Ⅱ(系統別) 身体の構造・機能Ⅲ(構造・機能測定法) 疾病治療論Ⅰ(呼吸・循環器系) 疾病治療論Ⅱ(消化器・内分泌系) 疾病治療論Ⅲ(筋骨格系) 疾病治療論Ⅳ(小児科系) 疾病治療論Ⅴ(神経系) 疾病治療論Ⅵ(泌尿器・産科系) ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習			身体の構造・機能Ⅰ(基礎編) 身体の構造・機能Ⅱ(系統別) 身体の構造・機能Ⅲ(構造・機能測定法) 疾病治療論Ⅰ(呼吸・循環器系) 疾病治療論Ⅱ(消化器・内分泌系) 疾病治療論Ⅲ(筋骨格系) 疾病治療論Ⅳ(小児科系) 疾病治療論Ⅴ(神経系) 疾病治療論Ⅵ(泌尿器・産科系) ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 病態学			身体の構造・機能Ⅰ(基礎編) 身体の構造・機能Ⅱ(系統別) 身体の構造・機能Ⅲ(構造・機能測定法) 疾病治療論Ⅰ(呼吸・循環器系) 疾病治療論Ⅱ(消化器・内分泌系) 疾病治療論Ⅲ(筋骨格系) 疾病治療論Ⅳ(小児科系) 疾病治療論Ⅴ(精神・神経系) 疾病治療論Ⅵ(泌尿器・産科系) ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 病態学
専	教授	鈴木 美奈 (45) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	鈴木 美奈 (45) <令和3年4月> 博士(医学)	専	教授	鈴木 美奈 (46) <令和3年4月> 博士(医学)
		大学入門講座 看護とキャリア※ 成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 急性期看護論 慢性期看護論 回復期看護論 終末期看護論 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護統合実習 がん看護論			看護関係法規 基礎看護学概論 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 感染看護			看護関係法規 基礎看護学概論 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 感染看護 終末期看護論
専	教授	鈴木 零江 (62) <令和3年4月> 修士(保健学)	専	教授	鈴木 零江 (62) <令和3年4月> 修士(保健学)	専	教授	鈴木 零江 (63) <令和3年4月> 修士(保健学)
		大学入門講座 看護とキャリア※ 成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 急性期看護論 慢性期看護論 回復期看護論 終末期看護論 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 がん看護 救急看護			大学入門講座 看護とキャリア※ 地域包括ケア概論 家族看護論※ 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			大学入門講座 看護とキャリア※ 地域包括ケア概論 家族看護論※ 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 がん看護 救急看護
専	准教授	田沼 奈子 (48) <令和3年4月> 修士(看護学)	専	准教授	田沼 奈子 (48) <令和3年4月> 修士(看護学)	専	准教授	田沼 奈子 (49) <令和3年4月> 修士(看護学)
		大学入門講座 看護とキャリア※ 地域包括ケア概論 家族看護論※ 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 救急看護			大学入門講座 看護とキャリア※ 地域包括ケア概論 家族看護論※ 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			大学入門講座 看護とキャリア※ 地域包括ケア概論 家族看護論※ 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 地域の健康と看護Ⅱ 地域・在宅看護実習 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	千々岩 友子 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)	専	准教授	千々岩 友子 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)	専	准教授	千々岩 友子 (47) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)	専	准教授	千々岩 友子 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		大学入門講座 看護とキャリア※ 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学実習 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護カウンセリング			大学入門講座 看護とキャリア※ 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学実習 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護カウンセリング メンタルヘルスと精神医学			大学入門講座 看護とキャリア※ 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学実習 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 看護カウンセリング 看護関係法規			
専	准教授		専	准教授		専	准教授		専	准教授	掛谷 和美 (46) ＜令和5年4月＞ 博士(看護学)
											成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 がん看護 救急看護
専	講師	諏訪免 典子 (56) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	諏訪免 典子 (56) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	諏訪免 典子 (57) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	諏訪免 典子 (56) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		地域の健康と看護Ⅱ 地域包括ケア概論 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 医療関係職種連携論			地域の健康と看護Ⅱ 地域包括ケア概論 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 医療関係職種連携論			地域の健康と看護Ⅱ 地域包括ケア概論 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 医療関係職種連携論			
専	講師	遠藤 貴子 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	遠藤 貴子 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	遠藤 貴子 (52) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	遠藤 貴子 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 急性期看護論 慢性期看護論 回復期看護論 終末期看護論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 がん看護			成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 急性期看護論 慢性期看護論 回復期看護論 終末期看護論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 がん看護			成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 急性期看護論 慢性期看護論 回復期看護論 終末期看護論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 がん看護			
専	講師	三島 富有 (49) ＜令和3年4月＞ 修士(老年学)	専	講師	三島 富有 (49) ＜令和3年4月＞ 修士(老年学)	専	講師	三島 富有 (50) ＜令和3年4月＞ 修士(老年学)	専	講師	三島 富有 (51) ＜令和3年4月＞ 修士(老年学)
		大学入門講座 高齢者看護学概論 高齢者看護学援助論 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			大学入門講座 高齢者看護学概論 高齢者看護学援助論 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			大学入門講座 高齢者看護学概論 高齢者看護学援助論 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			
専	講師	鈴木 久義 (37) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	鈴木 久義 (37) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	鈴木 久義 (38) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	鈴木 久義 (39) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		高齢者看護学概論 高齢者看護学援助論 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 地域包括ケア概論 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			高齢者看護学概論 高齢者看護学援助論 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 地域包括ケア概論 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			高齢者看護学概論 高齢者看護学援助論 高齢者看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅱ 地域包括ケア概論 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 慢性期看護論			
専	講師		専	講師		専	講師	大川 滋美 (40) ＜令和4年4月＞ 修士(看護学)	専	講師	大川 滋美 (41) ＜令和4年4月＞ 修士(看護学)
											成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	職名	氏名 (年齢)	職名	氏名 (年齢)	職名	氏名 (年齢)	
		<就任(予定)年月> 保有学位等		<就任(予定)年月> 保有学位等		<就任(予定)年月> 保有学位等		<就任(予定)年月> 保有学位等	
		担当授業科目名				担当授業科目名			
					専 講師	村瀬 ゆかり (59) <令和4年8月> 修士(看護学)	専 講師	村瀬 ゆかり (60) <令和4年8月> 修士(看護学)	
						リプロダクティブヘルス看護学概論 リプロダクティブヘルス看護学援助論 リプロダクティブヘルス看護学実習 地域母子健康 慢性期看護論 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習		リプロダクティブヘルス看護学概論 リプロダクティブヘルス看護学援助論 リプロダクティブヘルス看護学実習 地域母子健康 慢性期看護論 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習	
					専 講師	児島 佳子 (57) <令和4年4月> 修士(地域看護学)	専 講師	児島 佳子 (58) <令和4年4月> 修士(地域看護学)	
						小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護学実習 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習		慢性期看護論 小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護学実習 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習	
							専 講師	平塚 世津子 (60) <令和5年4月> 修士(地域看護学)	
								成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習	
							専 講師	小山田 路子 (53) <令和5年4月> 修士(地域看護学)	
								リプロダクティブヘルス看護学概論 リプロダクティブヘルス看護学援助論 リプロダクティブヘルス看護学実習 地域母子健康 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習	
							専 講師	遠藤 りら (48) <令和5年4月> 修士(地域看護学)	
								精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学実習 看護研究方法※ 看護カウンセリング ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習	
							専 講師	山本 晴美 (55) <令和5年4月> 修士(地域看護学)	
								慢性期看護論 在宅看護学概論 在宅看護学援助論 在宅看護学実習 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習	
専	助教	星野 正和 (45) <令和4年4月> 修士(人間学)	専	助教	星野 正和 (45) <令和4年4月> 修士(人間学)	専	助教	星野 正和 (46) <令和4年4月> 修士(人間学)	
		看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			大学入門講座 看護とキャリア※ ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学実習 看護カウンセリング ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専任	助教	櫻井 純子 (44) ＜令和4年4月＞ 修士(公衆衛生学)									
		ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 公衆衛生活動論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ									
専任	教授								専任	講師	小川 将太 (39) ＜令和5年4月＞ 博士(保健学)
											統計学入門 保健医療福祉行政論Ⅰ 地域の健康と看護Ⅰ 地域の健康と看護Ⅱ 地域包括ケア概論 産業看護論Ⅰ 産業看護論Ⅱ 公衆衛生看護学概論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生学演習Ⅰ 公衆衛生学演習Ⅱ 公衆衛生看護管理 公衆衛生学実習Ⅰ 公衆衛生学実習Ⅱ
			専任	助教	玉城 紫乃 (31) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)			玉城 紫乃 (32) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)			玉城 紫乃 (33) ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
					大学入門講座 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 公衆衛生活動論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			大学入門講座 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護概論 在宅看護援助論 在宅看護実習 地域・在宅看護実習 公衆衛生活動論 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			大学入門講座 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 公衆衛生看護学演習Ⅰ 公衆衛生看護学演習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅱ
専任	助教	嶋津 佑亮 (31) ＜令和4年4月＞ 修士(看護学)	専任	助教	嶋津 佑亮 (31) ＜令和4年4月＞ 修士(看護学)			嶋津 佑亮 (32) ＜令和4年4月＞ 修士(看護学)	専任	助教	嶋津 佑亮 (33) ＜令和4年4月＞ 修士(看護学)
		看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			大学入門講座 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			大学入門講座 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習			大学入門講座 ヘルスアセスメント 看護援助論Ⅰ 看護援助論Ⅱ 看護援助論Ⅲ 看護実践方法論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習
									専任	助教	廣瀬 永子 (50) ＜令和5年4月＞ 修士(看護学)
											小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護学実習 看護研究方法※ ヒューマンケア看護研究 ヒューマンケア総合演習 看護統合実習
兼任	講師	寄特 真一 (67) ＜令和3年4月＞ 文学士	兼任	講師	寄特 真一 (67) ＜令和3年4月＞ 文学士			寄特 真一 (68) ＜令和3年4月＞ 文学士	兼任	講師	寄特 真一 (69) ＜令和3年4月＞ 文学士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ フランス語			英語Ⅰ 英語Ⅱ フランス語			英語Ⅰ 英語Ⅱ フランス語			英語Ⅰ 英語Ⅱ フランス語
兼任	講師	大庭 晃 (76) ＜令和3年4月＞ 文学士	兼任	講師	大庭 晃 (76) ＜令和3年4月＞ 文学士			大庭 晃 (77) ＜令和3年4月＞ 文学士	兼任	講師	大庭 晃 (78) ＜令和3年4月＞ 文学士
		沼津の歴史と文化			沼津の歴史と文化			沼津の歴史と文化			沼津の歴史と文化
兼任	講師	吉崎 暢洋 (61) ＜令和3年4月＞ 法学修士	兼任	講師	吉崎 暢洋 (61) ＜令和3年4月＞ 法学修士			吉崎 暢洋 (62) ＜令和3年4月＞ 法学修士	兼任	講師	吉崎 暢洋 (63) ＜令和3年4月＞ 法学修士
		法学(日本国憲法を含む)			法学(日本国憲法を含む)			法学(日本国憲法を含む)			法学(日本国憲法を含む)
兼任	講師	天野 祥希 (28) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)	兼任	講師	天野 祥希 (28) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)						
		スポーツ健康科学Ⅰ スポーツ健康科学Ⅱ			スポーツ健康科学Ⅰ スポーツ健康科学Ⅱ						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	海野 徑 (68) <令和3年4月> 工学修士	化学
兼任	講師	渡邊 隆秀 (69) <令和3年4月> 工学士	数学の基礎
兼任	講師	蒔苗 景子 (55) <令和3年4月> 教育学士	生物学
兼任	講師	松原 龍一 (68) <令和3年4月> 理学士	物理学入門
兼任	講師	高木 和実 (69) <令和3年4月> 経営学士	情報学基礎 情報処理
兼任	講師	佐久間 寿恵 (32) <令和3年4月> 学士(教育学)	手話入門
兼任	講師	高橋 章 (69) <令和3年4月> 工学博士	生化学
兼任	講師	末永 美雪 (66) <令和3年4月> 家政学士	医療栄養学
兼任	講師	吉岡 俊正 (66) <令和3年9月> 医学博士	薬理学 病態学 教育学
兼任	講師	鈴木 修 (75) <令和3年9月> 医学博士	感染と免疫 疫学 保健統計
兼任	講師	鈴木 哲朗 (61) <令和3年9月> 農学博士	感染と免疫
兼任	講師	Henry Post (55) <令和3年9月> 農学士	ドイツ語
兼任	講師	真弓 尚也 (51) <令和4年4月> 修士(哲学)	比較思想

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	海野 徑 (68) <令和3年4月> 工学修士	化学
兼任	講師	渡邊 隆秀 (69) <令和3年4月> 工学士	数学の基礎
兼任	講師	蒔苗 景子 (55) <令和3年4月> 教育学士	生物学
兼任	講師	松原 龍一 (68) <令和3年4月> 理学士	物理学入門
兼任	講師	高木 和実 (69) <令和3年4月> 経営学士	情報学基礎 情報処理
兼任	講師	佐久間 寿恵 (32) <令和3年4月> 学士(教育学)	手話入門
兼任	講師	高橋 章 (69) <令和3年4月> 工学博士	生化学
兼任	講師	末永 美雪 (66) <令和3年4月> 家政学士	医療栄養学
兼任	講師	吉岡 俊正 (66) <令和3年9月> 医学博士	薬理学 病態学 教育学
兼任	講師	白木 洋 (75) <令和3年4月> 医学博士	薬理学
兼任	講師	鈴木 哲朗 (61) <令和3年9月> 農学博士	感染と免疫
兼任	講師	Henry Post (55) <令和3年9月> 農学士	ドイツ語
兼任	講師	真弓 尚也 (51) <令和4年4月> 修士(哲学)	比較思想

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	川端 公人 (28) <令和4年4月> 修士(教育学)	スポーツ健康科学 I スポーツ健康科学 II
兼任	講師	海野 徑 (69) <令和3年4月> 工学修士	化学
兼任	講師	渡邊 隆秀 (70) <令和3年4月> 工学士	数学の基礎
兼任	講師	蒔苗 景子 (56) <令和3年4月> 教育学士	生物学
兼任	講師	松原 龍一 (69) <令和3年4月> 理学士	物理学入門
兼任	講師	高木 和実 (70) <令和3年4月> 経営学士	情報学基礎 情報処理
兼任	講師	佐久間 寿恵 (33) <令和3年4月> 学士(教育学)	手話入門
兼任	講師	高橋 章 (70) <令和3年4月> 工学博士	生化学
兼任	講師	末永 美雪 (67) <令和3年4月> 家政学士	医療栄養学
兼任	講師	吉岡 俊正 (67) <令和3年9月> 医学博士	薬理学 病態学 教育学
兼任	講師	橋本 光正 (62) <令和4年4月> 博士(薬学)	薬理学
兼任	講師	鈴木 哲朗 (62) <令和3年9月> 農学博士	感染と免疫
兼任	講師	細川 まゆ子 (43) <令和4年4月> 医学博士	疫学 保健統計
兼任	講師	Henry Post (56) <令和3年9月> 農学士	ドイツ語
兼任	講師	真弓 尚也 (52) <令和4年4月> 修士(哲学)	比較思想

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	川端 公人 (29) <令和4年4月> 修士(教育学)	スポーツ健康科学 I スポーツ健康科学 II
兼任	講師	海野 徑 (70) <令和3年4月> 工学修士	化学
兼任	講師	渡邊 隆秀 (71) <令和3年4月> 工学士	数学の基礎
兼任	講師	蒔苗 景子 (57) <令和3年4月> 教育学士	生物学
兼任	講師	松原 龍一 (70) <令和3年4月> 理学士	物理学入門
兼任	講師	高木 和実 (71) <令和3年4月> 経営学士	情報学基礎 情報処理
兼任	講師	佐久間 寿恵 (34) <令和3年4月> 学士(教育学)	手話入門
兼任	講師	高橋 章 (71) <令和3年4月> 工学博士	生化学
兼任	講師	末永 美雪 (68) <令和3年4月> 家政学士	医療栄養学
兼任	講師	吉岡 俊正 (68) <令和3年9月> 医学博士	薬理学 病態学 教育学
兼任	講師	橋本 光正 (63) <令和4年4月> 博士(薬学)	薬理学
兼任	講師	鈴木 哲朗 (63) <令和3年9月> 農学博士	感染と免疫
兼任	講師	細川 まゆ子 (44) <令和4年4月> 医学博士	疫学 保健統計
兼任	講師	Henry Post (57) <令和3年9月> 農学士	ドイツ語
兼任	講師	真弓 尚也 (53) <令和4年4月> 修士(哲学)	比較思想

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	櫻庭 繁 (74) ＜令和3年9月＞ 博士(医学)	メンタルヘルスと精神医学 医療経済入門
兼任	講師	堀内 孝 (68) ＜令和4年9月＞ 工学博士	医療工学入門
兼任	講師	山田 信治 (60) ＜令和4年9月＞ 専門士(医療専門課程)	健康障害の回復と支援
兼任	講師	大坪 正史 (60) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	遺伝と健康
兼任	講師	玉腰 浩司 (63) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	先進医療
兼任	講師	秋山 隆子 (47) ＜令和6年4月＞ 学士(法学)	労働衛生関係法規
兼任	講師	堀田 久美 (54) ＜令和4年4月＞ 博士(保健学)	リプロダクティブヘルス看護学 援助論 リプロダクティブヘルス看護学 実習
兼任	講師	菊池 真喜子 (54) ＜令和5年9月＞ 専門士	急性期看護論
兼任	講師	長橋 美奈子 (62) ＜令和4年9月＞ 准学士	学校保健活動論
兼任	講師	園田 紀夫 (67) ＜令和6年4月＞ 医学士	医療安全論 救急看護
兼任	講師	兼子 友里 (51) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)	看護管理
兼任	講師	竹内 浩視 (58) ＜令和3年4月＞ 医学博士	医療の歴史 医療政策論入門
兼任	講師	石田 千聖 (57) ＜令和6年9月＞ 博士(看護学)	災害看護

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	櫻庭 繁 (74) ＜令和3年9月＞ 博士(医学)	メンタルヘルスと精神医学 医療経済入門
兼任	講師	内山 彰 (63) ＜令和3年9月＞ 医学士	メンタルヘルスと精神医学
兼任	講師	堀内 孝 (68) ＜令和4年9月＞ 工学博士	医療工学入門
兼任	講師	山田 信治 (60) ＜令和4年9月＞ 専門士(医療専門課程)	健康障害の回復と支援
兼任	講師	大坪 正史 (60) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	遺伝と健康
兼任	講師	玉腰 浩司 (63) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	先進医療
兼任	講師	秋山 隆子 (47) ＜令和6年4月＞ 学士(法学)	労働衛生関係法規
兼任	講師	堀田 久美 (54) ＜令和4年4月＞ 博士(保健学)	リプロダクティブヘルス看護学 援助論 リプロダクティブヘルス看護学 実習
兼任	講師	菊池 真喜子 (54) ＜令和5年9月＞ 専門士	急性期看護論
兼任	講師	長橋 美奈子 (62) ＜令和4年9月＞ 准学士	学校保健活動論
兼任	講師	園田 紀夫 (67) ＜令和6年4月＞ 医学士	医療安全論 救急看護
兼任	講師	兼子 友里 (51) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)	看護管理
兼任	講師	竹内 浩視 (58) ＜令和3年4月＞ 医学博士	医療の歴史 医療政策論入門
兼任	講師	石田 千聖 (57) ＜令和6年9月＞ 博士(看護学)	災害看護

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	内山 彰 (64) ＜令和3年9月＞ 医学士	疾病治療論Ⅴ(精神・神経系)
兼任	講師	河野 惟隆 (80) 博士(経済学)	医療経済入門
兼任	講師	瀧口 淳 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(医療科学)	医療工学入門
兼任	講師	山田 信治 (61) ＜令和4年9月＞ 専門士(医療専門課程)	健康障害の回復と支援
兼任	講師	大坪 正史 (61) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	遺伝と健康
兼任	講師	玉腰 浩司 (64) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	先進医療
兼任	講師	秋山 隆子 (48) ＜令和6年4月＞ 学士(法学)	労働衛生関係法規
兼任	講師	堀田 久美 (55) ＜令和4年4月＞ 博士(保健学)	リプロダクティブヘルス看護学 援助論 リプロダクティブヘルス看護学 実習
兼任	講師	菊池 真喜子 (55) ＜令和5年9月＞ 専門士	急性期看護論
兼任	講師	長橋 美奈子 (63) ＜令和4年9月＞ 准学士	学校保健活動論
兼任	講師	園田 紀夫 (68) ＜令和6年4月＞ 医学士	医療安全論 救急看護
兼任	講師	兼子 友里 (52) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)	看護管理
兼任	講師	竹内 浩視 (59) ＜令和3年4月＞ 医学博士	医療の歴史 医療政策論入門
兼任	講師	石田 千聖 (58) ＜令和6年9月＞ 博士(看護学)	災害看護
兼任	講師	三輪 真知子 (70) ＜令和6年4月＞ 博士(学術)	保健医療福祉行政論Ⅱ 公衆衛生看護学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	内山 彰 (65) ＜令和3年9月＞ 医学士	疾病治療論Ⅴ(精神・神経系)
兼任	講師	河野 惟隆 (81) 博士(経済学)	医療経済入門
兼任	講師	瀧口 淳 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(医療科学)	医療工学入門
兼任	講師	山田 信治 (62) ＜令和4年9月＞ 専門士(医療専門課程)	健康障害の回復と支援
兼任	講師	大坪 正史 (62) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	遺伝と健康
兼任	講師	玉腰 浩司 (65) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	先進医療
兼任	講師	秋山 隆子 (49) ＜令和6年4月＞ 学士(法学)	労働衛生関係法規
兼任	講師	堀田 久美 (56) ＜令和4年4月＞ 博士(保健学)	リプロダクティブヘルス看護学 援助論 リプロダクティブヘルス看護学 実習
兼任	講師	菊池 真喜子 (56) ＜令和5年9月＞ 専門士	急性期看護論
兼任	講師	長橋 美奈子 (64) ＜令和4年9月＞ 准学士	学校保健活動論
兼任	講師	園田 紀夫 (69) ＜令和6年4月＞ 医学士	医療安全論 救急看護
兼任	講師	兼子 友里 (53) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)	看護管理
兼任	講師	竹内 浩視 (60) ＜令和3年4月＞ 医学博士	医療の歴史 医療政策論入門
兼任	講師	石田 千聖 (59) ＜令和6年9月＞ 博士(看護学)	災害看護
兼任	講師	三輪 真知子 (71) ＜令和6年4月＞ 博士(学術)	保健医療福祉行政論Ⅱ 公衆衛生看護学概論

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・菊池明江教授就任辞退のため、鈴木美奈教授が成人領域から基礎看護領域に変更。成人領域には鈴木琴江教授が就任。
- ・基礎看護科目の充実のため、中野禎久准教授が就任。
- ・櫻井純子助教就任辞退のため、玉城紫乃助教が就任。
- ・「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「ヘルスアセスメント」に中野禎久准教授、玉城紫乃助教、嶋津佑亮助教を追加。
- ・「大学入門講座」に鈴木琴江教授、玉城紫乃助教、嶋津佑亮助教を追加。
- ・「病態学」に中内暁博教授を追加。
- ・キャンパスの近隣に経験豊かな薬理学の専門家を得ることができたため、「薬理学」を岡岡俊正兼任講師から白木洋兼任講師に変更。
- ・「感染と免疫」を鈴木修兼任講師が現役の感染症関連講座の教授である鈴木哲朗兼任講師に変更。
- ・キャンパスの近隣に経験豊かな精神医学の専門家を得ることができたため、「メンタルヘルスと精神医学」の櫻庭兼兼任講師から内山彰兼任講師に変更。さらに授業の充実を図るため、精神看護学の専門家である石村佳代子教授、千々岩友子准教授を追加。

【令和4年度】

- ・石村教授辞任により、「看護関係法規」を千々岩友子准教授に変更。「看護とキャリア」を星野助教に変更。
- ・白木講師辞任により、「薬理学」を橋本兼任講師に変更。
- ・櫻庭講師辞任により、「医療経済学入門」を河野兼任講師に変更。
- ・天野講師辞任により、「スポーツ健康科学Ⅰ」「スポーツ健康科学Ⅱ」を川端兼任講師に変更。
- ・成人領域に大川滋美講師が就任したため、「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ」「成人看護学援助論Ⅱ」「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」に大川滋美講師を追加。
- ・小児領域に兒島佳子講師が就任したため、「小児看護学概論」「小児看護学援助論」「小児看護学実習」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」に兒島佳子講師を追加。
- ・「大学入門講座」に松田正己教授、兒島佳子講師、星野助教を追加。
- ・「ヘルスアセスメント」「看護援助論Ⅰ」「看護援助論Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅰ」「精神看護学概論」「精神看護学援助論」「精神看護学実習」「看護カウンセリング」に星野正和助教を追加。
- ・「看護カウンセリング」に田野将専兼任講師を追加。

【令和5年度】

- ・加城貴美子教授辞任により、「看護とキャリア」「リプロダクティブヘルス看護学概論」「リプロダクティブヘルス看護学援助論」「リプロダクティブヘルス看護学実習」「地域母子健康」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」を難波亜希子教授に変更。
- ・千々岩友子准教授辞任により、「精神看護学概論」「精神看護学援助論」「精神看護学実習」「看護研究方法」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」を遠藤りら講師に変更。
- ・諏訪典子講師辞任により、「在宅看護学概論」「在宅看護援助論」「在宅看護実習」「看護研究方法」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」を山本晴美講師に変更。
- ・鈴木琴江教授辞任により、「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ」「成人看護学援助論Ⅱ」「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」「看護研究方法」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」「がん看護」「救急看護」を掛谷和美准教授に変更。
- ・遠藤貴子講師辞任により、「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ」「成人看護学援助論Ⅱ」「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」を平塚世津子講師に変更。
- ・星野正和助教辞任により、「大学入門講座」「看護とキャリア」「ヘルスアセスメント」「看護援助論Ⅰ」「看護援助論Ⅱ」「看護援助論Ⅲ」「看護実践方法論」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「精神看護学概論」「精神看護学援助論」「精神看護学実習」「看護カウンセリング」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」を科目担当から削除。当該科目は教員の補充なく授業展開が可能。
- ・リプロダクティブヘルス看護学領域に小山田路子講師が就任したため、「リプロダクティブヘルス看護学概論」「リプロダクティブヘルス看護学援助論」「リプロダクティブヘルス看護学実習」「地域母子健康」「看護研究方法」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」に小山田路子講師を追加。
- ・小児看護学領域に廣瀬永子助教が就任したため、「小児看護学概論」「小児看護学実習」「看護研究方法」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」に廣瀬永子助教を追加。
- ・在宅看護領域に山本晴美講師が就任したため、「慢性期看護論」「在宅看護学概論」「在宅看護援助論」「在宅看護実習」「看護研究方法」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」に山本晴美講師を追加。
- ・公衆衛生看護学領域に小川将太講師が就任したため、「統計学入門」「保健医療福祉行政論Ⅰ」「地域の健康と看護Ⅰ」「地域の健康と看護Ⅱ」「地域包括ケア概論」「産業看護論Ⅰ」「産業看護論Ⅱ」「公衆衛生看護学概論」「ヒューマンケア看護研究」「ヒューマンケア総合演習」「看護統合実習」「公衆衛生看護活動論」「公衆看護活動展開論Ⅰ」「公衆看護活動展開論Ⅱ」「公衆衛生学演習Ⅰ」「公衆衛生学演習Ⅱ」「公衆衛生看護管理」「公衆衛生学実習Ⅰ」「公衆衛生学実習Ⅱ」に小川将太講師を追加。
- ・「急性期看護論」「終末期看護論」に田崎知恵子教授を追加。
- ・「慢性期看護論」「終末期看護論」「回復期看護論」に望月紀子教授を追加。
- ・「急性期看護論」に大川滋美講師を追加。
- ・「慢性期看護論」に兒島佳子講師、山本晴美講師を追加。
- ・「終末期看護論」に鈴木美奈教授を追加。
- ・「急性期看護論」「慢性期看護論」「回復期看護論」に星野正和兼任講師を追加。

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**A C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
11	2	4	3	20	0	9	3	10	3	25	0
(11)	(3)	(4)	(2)	(20)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
9	3	10	3	25	0	9	3	10	3	25	0
[Δ2]	[1]	[6]	[0]	[5]	[0]	[Δ2]	[1]	[6]	[0]	[5]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{25}{20} = \boxed{125} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{25} = \boxed{8} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	菊池 昭江	R3.4	必修	看護とキャリア	①	家庭の事情のため就任辞退（3）			
				必修	看護関係法規	①				
				必修	基礎看護学概論	①				
				必修	ヘルスアセスメント	①				
				必修	看護援助論Ⅰ	①				
				必修	看護援助論Ⅱ	①				
				必修	看護援助論Ⅲ	①				
				必修	看護実践方法論	①				
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①				
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①				
				必修	ヒューマンケア看護研究	①				
				必修	ヒューマンケア看護研究総合演習	①				
				必修	看護統合実習	①				
	選択	感染看護	①							
2	助教	櫻井 純子	R3.4	必修	ヒューマンケア看護研究	①	家庭の事情のため就任辞退（3）			
				必修	ヒューマンケア総合演習	①				
				必修	看護統合実習	①				
				選択	公衆衛生看護学活動論	①				
				選択	公衆衛生看護学演習Ⅰ	①				
				選択	公衆衛生看護学演習Ⅱ	①				
				選択	公衆衛生看護学実習Ⅰ	①				
	選択	公衆衛生看護学実習Ⅱ	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	16	科目	必修	16	科目	必修	0	科目
		選択	6	科目	選択	6	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	22	科目	計	22	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	石村 佳代子	R4.3	必修	大学入門講座	①	R4.3.31付け家庭の事情のため辞任(3)
				必修	看護とキャリア	①	
				必修	看護関係法規	①	
				必修	精神看護学概論	①	
				必修	精神看護学援助論	①	
				必修	精神看護学実習	①	
				必修	看護研究方法	①	
				必修	ヒューマンケア看護研究	①	
				必修	ヒューマンケア総合演習	①	
				必修	看護統合実習	①	
				必修	看護カウンセリング	①	
				必修	医療関係職種連携論	①	
				2	教授	加城 貴美子	
必修	リプロダクティブヘルス看護学概論	①					
必修	リプロダクティブヘルス看護学援助論	①					
必修	リプロダクティブヘルス看護学実習	①					
必修	地域母子健康	①					
必修	家族看護論※	①					
必修	看護研究方法※	①					
必修	ヒューマンケア看護研究	①					
必修	ヒューマンケア総合演習	①					
必修	看護統合実習	①					
3	教授	鈴木 琴江	R5.3	必修	大学入門講座	①	R5.3.31付け家庭の事情のため辞任(5)
				必修	看護とキャリア※	①	
				必修	成人看護学概論	①	
				必修	成人看護学援助論Ⅰ	①	
				必修	成人看護学援助論Ⅱ	①	
				必修	成人看護学実習Ⅰ	①	
				必修	成人看護学実習Ⅱ	①	
				必修	急性期看護論	①	
				必修	慢性期看護論	①	
				必修	回復期看護論	①	
				必修	終末期看護論	①	
				必修	看護研究方法※	①	
				必修	ヒューマンケア看護研究	①	
				必修	ヒューマンケア総合演習	①	
				必修	看護統合実習	①	
				必修	がん看護	①	
				必修	救急看護	①	
4	准教授	千々岩 友子	R5.3	必修	大学入門講座	①	R5.3.31付け家庭の事情のため辞任(5)
				必修	看護とキャリア※	①	
				必修	精神看護学概論	①	
				必修	精神看護学援助論	①	
				必修	精神看護学実習	①	
				必修	看護研究方法※	①	
				必修	ヒューマンケア看護研究	①	
				必修	ヒューマンケア総合演習	①	
				必修	看護カウンセリング	①	
必修	看護関係法規	①					
5	講師	諏訪免 典子	R5.3	必修	地域の健康と看護Ⅱ	①	R5.3.31付け家庭の事情のため辞任(5)
				必修	地域包括ケア概論	①	
				必修	在宅看護概論	①	
				必修	在宅看護援助論	①	
				必修	地域・在宅看護実習	①	
				必修	ヒューマンケア看護研究	①	
				必修	ヒューマンケア総合演習	①	
				必修	看護統合実習	①	
必修	医療関係職種連携論	①					

6	講師	遠藤 貴子	R5.3	必修	成人看護学概論	①	R5.3.31付け家庭の事情のため辞任 (5)		
				必修	成人看護学援助論Ⅰ	①			
				必修	成人看護学援助論Ⅱ	①			
				必修	成人看護学実習Ⅰ	①			
				必修	成人看護学実習Ⅱ	①			
				必修	急性期看護論	①			
				必修	慢性期看護論	①			
				必修	回復期看護論	①			
				必修	終末期看護論	①			
				必修	ヒューマンケア看護研究	①			
				必修	ヒューマンケア総合演習	①			
				必修	看護統合実習	①			
				必修	がん看護	①			
				7	助教	星野 正和		R5.4	必修
必修	看護とキャリア※	①							
必修	ヘルスアセスメント	①							
必修	看護援助論Ⅰ	①							
必修	看護援助論Ⅱ	①							
必修	看護援助論Ⅲ	①							
必修	看護実践方法論	①							
必修	基礎看護学実習Ⅰ	①							
必修	基礎看護学実習Ⅱ	①							
必修	精神看護学概論	①							
必修	精神看護学援助論	①							
必修	精神看護学実習	①							
必修	ヒューマンケア看護研究	①							
必修	ヒューマンケア総合演習	①							
必修	看護統合実習	①							
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
7	人	必修	86 科目	必修	86 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	86 科目	計	86 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退 (未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退 (未就任) の理由」に就任辞退の理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
9	人	必修	102 科目	必修	102 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	6 科目	選択	6 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	108 科目	計	108 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{9}{20} = \boxed{45} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1						該当なし	
2							
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員辞退の理由が家族の介護を含むやむを得ない事情のため認めざるを得ない状況であると認識している。講義の開講については後任の専任教員が中心となって対応するため問題はない。
 学生へはシラバス及びポータルサイト、ガイダンスにて学生に周知している。

(注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和2年)	運動場及び体育館が別置にあることから、教育に支障の内容にすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。	遵守事項 学生の施設移動の利便性を上げるためマイクロバスを運転できる職員を配置した。(3)	履行中 予算に見合った車両の購入を計画している。(3)(4)(5)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 (管理栄養学部管理栄養学科)	指摘事項 (改善) ・新型コロナウイルス感染拡大により、対面での広報活動が制限された影響もあり、前年度を下回る充足率となってしまった。(3)	履行中 ・情報通信技術を活用した新たな広報戦略を工夫・実施するとともに、感染対策に気を付けながら対面での広報活動も行い、学生確保に努める。(3)(4)(5)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行するよう努めるとともに、今後、新たに教員の採用及び昇格の選考を行う際には設置計画履行状況等調査における教員審査を受審すること。(管理栄養学部管理栄養学科)	指摘事項 (改善) 専任教員数の補充のため、現在、採用と昇格の選考を行い、令和4年6月にAO教員審査の受審予定となっている。(4) 令和4年6月の教員審査を受審し、昇格と採用ならびに欠員の助手の採用を実施した。(5)	履行済 令和4年6月のAO教員審査の結果を受け、欠員となる助手の補充を行う予定である。(4) 設置計画に沿った教員を確保した。(5)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 (管理栄養学部管理栄養学科)	指摘事項 (改善) これまで、広報活動に注力し、様々な取り組みを行ってきたが、平均定員超過率が0.52と定員の確保には至らないため、適正な定員数への定員減を検討する。(4)	履行中 適正な定員とするため、大学内での定員の付け替えを含め、定員の見直しを進める。(令和6年度予定) (4)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 (幕張ヒューマンケア学部臨床工学科)	指摘事項 (改善) 臨床工学技士という職業及び臨床工学科の教育内容の周知に注力し広報活動を実施し、入学者は8名から25名と大幅に増加はしたものの、定員充足には至らなかった。(4)	履行中 初年度より増加はしたものの、まだ定員充足には至らないため、広報の手段等を検討し、更なる臨床工学科の教育および職業像の周知に力を入れ広報を行う。(4)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和4年)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 (管理栄養学部管理栄養学科)	【A C】 指摘事項 (改善) 令和6年4月より定員を20名減じることを理事会にて決定した。(5)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (令和4年)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 (幕張ヒューマンケア学部臨床工学科)	【A C】 指摘事項 (改善) 令和5年度は19名の入学者となり、努力実らず、前年度の入学定員充足率を下回ってしまった。(5)	履行中 令和4年度のオープンキャンパス等への参加者は前年度比18%増にもかかわらず、入学へ繋がらなかった原因は、社会の臨床工学技士という職業への認知不足であり、出口のニーズに対して、入口のニーズが足りていない状況である。このギャップを解消するため、教職員一体となり、高校訪問数およびエリアを拡大し、職業啓蒙を図ると共に、出前講義の回数を増やし積極的に臨床工学科およびその職業像の周知を行っていく。(5)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<沼津ヒューマンケア学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 男子更衣室</p> <p>② 研究室5</p>	<p>①設置時の計画では1号館1階の事務室裏に計画していたが、事務室との壁が薄いため機密事項の漏洩等の問題が懸念されたため2階女子更衣室を仕切り、男子更衣室とした。(3)</p> <p>②設置時の計画ではカウンセリング室が保健センター内に計画されていたが、相談者のプライバシーを保護する目的で隣の研究室5をカウンセリング室とした。 なお、研究室5は非常勤講師室を仕切り、設置することとした。(3)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>大学設置基準第二十五条の三に規定されている、「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する」上での組織として、東都大学FD委員会（沼津ヒューマンケア学部）を設置し、活動を行っている。「東都大学FD委員会規程」は以下の通りである。</p> <p>東都大学 FD委員会規程</p> <p>（目的）</p> <p>第1条 この規程は、本学の教育活動を発展させるため、東都大学教授会規程第8条第3項の規定に基づき、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会（以下「委員会」という。）に関して必要な事項を定めるものとする。</p> <p>（構成）</p> <p>第2条 委員会は、学部ごとに置くものとし、委員は教授会において選出された教員若干名をもって構成する。 2 委員会には委員長を置き、学部長が指名する。</p> <p>（任期）</p> <p>第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。 2 後任者の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>（開催）</p> <p>第4条 委員会は、必要の都度、開催する。 2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が議長の業務を行う。 3 委員会には、委員長が必要と認めたものを出席させることができる。</p> <p>（審議事項）</p> <p>第5条 委員会は、各学部における次の事項を審議する。 （1）FD活動の企画及び運営に関する事項 （2）学生の授業評価に関する事項 （3）その他教授方法等教育開発に関する事項 2 審議の結果は、関係教授会に報告するものとする。</p>
--

(定足数)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 議決を要する事項は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門部会)

第7条 委員会が必要と認める場合には、専門部会を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、所属事務部の教務課が行う。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、教授会の意見を聴いて学長が定める。

附則

1 この規程は、平成26年10月22日から施行する。

2 東都医療大学FD・自己点検評価委員会規程は廃止する。

3 東都医療大学教授会規程の一部を次のように改正する。

第8条第2項の別表中「FD・自己点検評価委員会」を「FD委員会」に改める。

附則

この規程は平成27年4月1日から施行する。

附則

この規程の改正は、平成27年10月1日から施行する。

附則

この規程の改正は、平成27年12月1日から施行する。

附則

この規程の改正は、平成30年4月1日から施行する。

附則

この規程の改正は、平成31年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和4年度は教員5名と職員2名で構成し、委員会は原則として月1回、合計12回開催した。（全回、全員出席）

c 委員会の審議事項等

東都大学FD委員会規程では、以下の通り審議事項が定められている。

- ・FD活動の企画及び運営に関する事項
- ・学生の授業評価に関する事項
- ・その他教授方法等教育開発に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- 1) 授業評価アンケートの実施
- 2) 教員相互の授業参観の実施
- 3) FD・SD研修会の実施

b 実施方法

- 1) 授業評価アンケート

後掲の「③学生に対する授業評価アンケートの実施状況」に記載。

- 2) 教員相互の授業参観の実施

教員の授業相互参観は、互いの教授スキルを高め合う事後フィードバックに焦点化して、新たに着任した教員および前年度実施できなかった教員を対象に実施した。その結果、新規着任の教員は全員が相互参観を実施し、フィードバックコメントを記載・公開した。

- 3) FD・SD研修会の実施

3キャンパス合同研修会を9月に実施した。試験における作問ポイントを基調講演としそれに基づいてグループワークにより討議、意見交換を行った。本学における教育の質保証、教育方法そして学修者評価の動向についての意見交換を通じて、各教員が個人だけでなく学科全体の授業改善や教育技術の向上に役立てることができた。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- 1) 授業評価アンケートの実施（前期及び後期の授業科目100%で実施）
- 2) 教員相互の授業参観の実施（新任の専任教員の100%の参加率）
- 3) 試験における作問研修会（本年度は1回、9月に実施し、専任教員の90%の参加率）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

FD委員会では、授業評価アンケートの評価結果及び自由記述コメントを教員にフィードバックし、これに対するコメント及び改善案をFD委員会に提出してもらい、授業改善を支援している。
また相互授業参観が進められることにより、事後の意見交換を通じて、より一層の教授力の向上が期待される。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学生に対する授業評価アンケートは前期・後期それぞれ14週目または15週目にWEBにより、専任・兼任を問わず全ての授業科目を対象に実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケート結果は個別の定量的評価結果と自由記述によるコメントを各教員にフィードバックし、特に自由記述に対する教員のコメントはFD委員会においてまとめ、学内で教職員及び学生が閲覧できるよう「授業評価アンケート結果」として冊子にし、図書館に配架している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

令和4年度大学機関別認証評価を受審し、評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に本学は適合していると認定された。

沼津ヒューマンケア学部看護学科の目指すところは、静岡県における近年の少子高齢社会の進展に伴う多様なニーズや社会の要求に応える看護師・保健師の需要に応えるとともに、人間性の理念を基礎とするケア、すなわちヒューマンケアを実践できる医療人を養成することである。

この目的に従い、沼津ヒューマンケア学部においては、生命を尊重し、人間の尊厳と基本的な権利を理解するとともに、学問的な基礎の上に専門的な実践能力をもち、地域の保健・医療・福祉の担い手としてリーダーシップを発揮し、学問の発展に貢献できる医療人を養成することを教育理念としている。

設立当初よりヒューマンケアの精神を基盤とし、学部学科の個性と特色を加味しながら3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の検討と見直しを行い、中期計画に反映させている。そして大学の使命・目的、教育目的を達成するために必要な教育研究組織を整備してきている。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延したことにより、教室の調整、遠隔授業のための通信環境の整備を行い、そして「三密」を避けることをはじめとした感染予防を徹底してきた。

学修活動及び学生生活でのケアの一環として、本学科ではチューター制を導入しており、各専任教員が8名程度の学生を担当し、事務局と連携し教職協働に基づき、きめ細かい学修支援を行っている。

学生の意見、要望を把握するためのアンケートや学生意見箱により、学生の要望には迅速に対応し、学生生活の改善に反映している。

また、地域産業と連携した健康セミナーへの講師派遣や新型コロナウイルスワクチンの職域接種などにより、地域貢献を果たしてきている。

専任教員数は大学設置基準で定める数を上回る教員を配置しており、FD委員会を中心に研修会の機会を設け、FD活動を展開している。研究環境の整備については、休日及び時間外の研究室（フロア）への出入りに配慮し、また研究倫理については関係規則（規程）を整備し、研究課題の倫理審査を行うなど研究支援を行っている。

内部質保証のための恒常的組織として「自己点検・評価委員会」を設け、自己点検・評価を定期的実施している。

沼津ヒューマンケア学部看護学科は学科設置3年目となり、設置届出時の附帯事項については可能な限り改善を行う。そして自己点検評価で挙げられた課題についても今後継続して改善を図り、学生にとって最適な学修環境の整備を進めていくとともに教育研究活動の水準を一層向上させていくこととする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年2月 公表予定

b 公表方法

自己点検・評価報告書を作成し、大学ホームページ上に公開するとともに、学生閲覧用として図書館に備えている。

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受審した。次回は7年後の受審を予定している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。